

答辞

春風が吹き始め冬の寒さも和らぎ、春の訪れを感じる今日、私たち二十名は卒業の日を迎えました。ご来賓の皆様、本日はお忙しい中、ご参列いただき、誠にありがとうございます。

今、この三年間を思い返すと沢山の思い出が溢れてきます。三年前の春、私は転入生としてこの大山中学校に入学しました。当時の私は新しい環境に慣れようと必死でした。中学校では何を学ぶのか、どんな人がいるのか、期待と不安で胸がいっぱいでした。

そんな私に優しく接してくれたのはクラスメイトと上級生の皆さんでした。おかげで、安心して中学校生活を始めることができました。

七年生、

なれない五十分授業で、内容も難しく、あまり成績を伸ばせなかったことを覚えています。

はじめての部活動では、体力作りがとてもキツかったのですが、先輩たちに優しく指導していただき、楽しく活動することができました。

八年生、

中堅学年として、九年生を支え、七年生の手本となるように心がけました。私たちに、先輩がしてくれたように、七年生が安心して登校できるようにやさしく声をかけたり、あいさつをしたりしました。後輩と接することで、先輩たちの苦勞を知ることができました。八年生の一番の思い出は、修学旅行です。奈良、京都、大阪を巡り、日本の歴史や美味しい料理を楽しむことができました。でも、一番の思い出は、USJです。友人たちと乗ったジェットコースターは最高でした。思いっきり楽しむことができました。

九年生、

最上級生としての責任と受験というプレッシャーを抱えながら、九年生のみんなと協力して執行部や専門部の運営をしました。私は緑鷹会会長となり、「学校をどう変えるか」という意識が芽生え、それまで以上に責任感が強まりました。スローガン「ホム」を掲げ、全校生徒が協力し、一人ひとりが努力したことで、挨拶がよくなったり、ボランティア活動に積極的に参加する生徒が増えたりしました。大山中学校全体がレベルアップできたと思っています。

緑鷹祭、私たちは3年間劇に取り組んできました。今年の劇はオリジナルの台本を作り、進路をテーマに演じました。当日参加できなかった友人もビデオ出演などの工夫をして参加することができました。クラスの一団感をより高めることができた緑鷹祭で、過去最高の劇となりました。また、私たちの進路意識を高めた劇でもありました。どれも、かけがえのない思い出です。

九年生のみんな、私が、この学び舎で過ごした時間はみんなより短かったです、そのことを感じさせないくらい沢山の思い出ができました。二十人の仲間に出会えて本当に良かったと思います。素晴らしい出会いをありがとう。私たちは、これからはそれぞれの道を進むことになりました。寂しい気持ちでいっぱいですが、ここで学んだことを糧にして、夢に向かって歩み続けましょう。

先生、このような立派な卒業式を挙行していただきありがとうございます。こんな私たちでしたが、ご指導いただいたことは忘れません。本当にありがとうございます。

最後に、お父さん、お母さん、毎日当たり前のように過ごしていたけど、それは二人が支えてくれているからだど気づけました。部活動で、朝早い日もお弁当を作ってくれたり、試合の日に応援に来てくれたり、本当に感謝しています。叱られたこともありましたが、それも私のためだったと理解することができました。まだまだ迷惑をかけることもあると思いますが、少しずつ成長すること、恩返ししたいと思います。中学校三年間で出会ったすべての人に感謝し、答辞といたします。